

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立浜名特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立浜名特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	125人

1. 使用状況

寄贈物品名	平均台セット・複合バランス遊具 (レインボーバランスストーン ウェイブバランス平均台)
使用学年及び人数	小学部1年生から6年生まで 51人
使用頻度	毎日(授業で使用するとき)～週3回(通常するとき)
使用状況	<p>1学期から2学期にかけて、2年生が主に授業へ取り入れて使用した。</p> <p>①9月の体育では、「体づくり運動」の一環として、平均台を取り入れバランス感覚を養う授業を行った。</p> <p>②10月の運動会の学年種目「フルーツポンチを作ろう」では、9月から体育で学習してきた平均台を第1種目に取り入れ、全3種目の演技で構成した種目を設定した。</p> <p>③4年生が11月の体育「器械運動」の平均台として使用した。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>体育の使用では、異なる表面(凹凸の有無)の平均台を組み合わせることにより、足底から異なる刺激を受け、その中でバランス感覚を養う練習ができた。</p> <p>また、高さの異なる平均台を組み合わせることにより、上下動のある不安定な中での高度なバランス感覚を養うことができた。</p> <p>学年が進むにつれ、単調な平均台よりも変化のある平均台の方が興味関心を高めることができ、活動への意欲付けとなった。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>身体を巧みに操る力(巧緻性)や様々な動作を短時間で覚える力などが発達する9歳から12歳の時期に、いろいろな体の動かし方や道具を活用した運動を多く取り入れていきたいと考えている。</p> <p>課題としては、1年生から6年生までが同じカリキュラムの中で活動しているため、使用学年が1学年に限られてしまう。そのため使用に関しては学年間の調整が必要である。</p>
その他希望や所感など	<p>小さく分解できる道具のため、保管が容易にできる。</p> <p>連続使用の際は、教室の角にでも保管できる。</p>

2. 活用の様子

①9月の体育



室内で素足になり、バランス感覚や足底からの刺激、高低差を感じ取る学習の様子。

②運動会 ※下は練習風景、左は運動会当日



素足でバランスが取れた児童も靴を履くと感覚が異なり、個人差はあるが、慣れるまでに時間を必要とした。

③4年生の体育「器械運動」平均台

教室の大きさに合わせてレイアウトができ、楽しく授業に取り組んでいる様子。

